

# 世界の若者に福島事故情報を発信

## 世界原子力大学(WNU) 夏季研修に参加して



WNU夏季研修が三年連続で開催された英国オックスフォード大学のキャンパス

世界原子力大学(WNU)の第七回夏季研修(SI)が、今年も七月九日から八月二十日までの六週間、英国ロンドン郊外のオックスフォード大学で開催された。

原子力を推進している国、これから推進しようとする国など、世界中から組織や個人的に原子力に強い関心をもっている若者達が、六週間にわたって、同じ宿舎で寝起きを共にし、原子力について知識を共有し、議論し、互いの立場や専門性、お国柄を超えて信頼を築いていく、そんな貴重な経験を積み重ねるWNU夏季研修の特徴だ。

今年も三十二か国・地域から七十八人が参加した。平均年齢は約三十一歳、所属は研究所、規制機関、メーカー、電力会社など、職種もエンジニア、運転員、検査員、弁護士などさまざまだ。男性が七七%、女性が二三%だった。

研修内容は、その分野に参加したのは川久保陽子・日本原子力研究開発機構核物質管理科学技術推進部技術開発室、後藤弘行・関西電力原子力事業本部放射線管理グループ、三宅基寛・日立GEBニュークリア・エナジー社原子力プラント部プラント設計グループ技師の三氏。

十月五日には、東京の原産協会の会議室で三人の報告会が開かれ、貴重な体験が語られた。

三人が夏季研修に参加して最も意を注いだのは、「フクシマ事故」をこれから各国でリーダーとなっていくであろう世界の若者に正確に伝えること、議論を進める上でリーダーシップの取り方、そして議論を通じた



WNU夏季研修に参加した全員での記念写真

の著名人の講演、気候変動から各国の原子力政策、次世代炉開発、核不拡散、放射線利用、法律、経済性、パブリック・コミュニケーションなど多岐にわたる講義、模擬記者会見やプラント商談のプレゼンテーションの仕方、英国の原子力発電所や燃料工場の原子力施設の見学などからなる。

それに今年は急遽、「フクシマ事故」がテーマに加わった。日本からは、日本原子力産業協会の向坊隆記念国際育成事業として当初五名を派遣する予定だったが、三月の福島原子力事故を受けて東京電力からの二名が参加を取り止めた。

参加したのは川久保陽子・日本原子力研究開発機構核物質管理科学技術推進部技術開発室、後藤弘行・関西電力原子力事業本部放射線管理グループ、三宅基寛・日立GEBニュークリア・エナジー社原子力プラント部プラント設計グループ技師の三氏。

人々との信頼感の醸成、そしてこれからの長く関係を続けることのできる友情・人脈の確保。中には国と国とが緊張関係にある国同士からの参加者もいる。

これらは皆、英語をネイティブとする参加者が比較的多いイングリッシュ・シャワーの中で、行わなければならない。長年、夏期研修で若者を指導するシニア・アドバイザー(メンター)を務めてきた原産協会国際部の小西俊雄氏も、特に今年は、「フクシマ事故」の取扱いに気を使っ

る参加者がいる中で、核不拡散問題も論じられる。そして、広島・長崎の原爆被災の状況も、日本の参加者は否応なく聞かれる立場となる。時に「非核兵器国として世界で唯一、燃料サイクル政策を取ることを確保している日本の立場を説明しなければならぬ局面もある。」

「フクシマ・セッション」では、三人も個別に自分の体験談を話した。一番慌てたのは、日本にいるときから発表を準備していた日本の原子力政策についてだ。発表数日前に、当時の菅直人首相が「脱原発依存」の方針を発表したからだ。当然、各国の参加者からは注目を浴び、さまざまな質問が浴びせられたという。

彼ら三人が夏季研修を通じて得た特に関心を持った印象に残った議論や意見としては、次のようなものを挙げていく。

▽福島事故報告では、当時の体験を追体験できた。▽被曝による死者は出ていないとニュース等で繰り返す今夏夏季研修に参加した右から川久保さん、後藤さん、三宅さん(5日、原産協会の報告会で)



リスクをどう伝えるのかという視点が大切。▽今回の事故で、自分の生活が脅かされていると感じている人達は必死に勉強しようとしている。科学不信の中でも、専門家が伝えること、教育することを放棄すべきではない。

▽議論を自ら引張るのもリーダーシップの重要な要素。▽安全への努力が口でなくリスクの受容」▽事業者と規制側が専門性を競い合う構図を、公衆に実際見せようこと。政策決定プロセスの透明性が公衆の信頼喪失に対しては有効だ。

▽人々の生活を奪った事実の重さを考え、自然災害にどう対応するか。▽責任、権限、個人↑組織、参加者各人のリーダー意識の持ちようが重要。▽今年度の夏季研修全体を通じて、「フクシマ事故」は至る所で議論され、質問が飛び交ったが、講師や各国参加者の多くの考えは、①新規設計計画が延期されることへの心配、②より安全性を意識するようになったこと、③だ

おしなべて、世界の多くの人は福島原子力発電所事故が、各国の原子力政策を変更するほどの影響があるとは考えられてはいない。福島は反省点を生かし、さらに安全性を高めようという前向きな意識が強い」との感触をもって帰って来たことが、総括として述べられた。

教室以外の生活では、講義の休憩時のおしゃべり、休日のスポーツ、美術や音楽鑑賞、参加各国や地域ごとの主催パーティー、会食などを通じて、楽しい参加者同士の交流がなされた。

### Flexible & Powerful

未来に向かって柔らかくたくましく発展する。

## 耐放射線性に優れたゴム材料

放射線環境におけるゴム材料の耐久性を向上する事により

- 超高濃度放射線レベルでの使用が可能
- 部品交換頻度・作業被ばく量の低減
- 設備機器の信頼性向上
- 豊富な製品ラインナップ (シート・パッキン・シール材etc.)

HAYAKAWA RUBBER CO.,LTD.

耐放射線環境ゴムの種類と特徴について

区分	ゴムの種類	特徴	使用温度範囲(目安)	耐放射線確認レベル
100シリーズ	EPDM系	機械的強度に優れた材料です。	-35~90℃	8MGy
300シリーズ	EPDM系	汎用で適用範囲の広い材料です。	-35~90℃	20MGy
500シリーズ	EPDM系	高真空系の材料に適しています。アウトガス特性はフッ素ゴム同等以上の機能を有しています。	-50~100℃	1.2MGy
700シリーズ	BR系	2液室温硬化タイプの不定型シール材です。	-20~70℃	2.6MGy
800シリーズ	ブチル系	粘着及び水密性に優れた材料です。	-30~70℃	1MGy
900シリーズ	アクリル系	耐熱、耐油用途に適しています。	-20~130℃	2MGy

耐放射線環境ゴムの研究開発は、独立行政法人 日本原子力研究開発機構との共同成果です。

●この製品に関するお問い合わせは E-mail:info04@hrc.co.jp

●耐放射線性に優れたゴムに関しては早川ゴムのホームページを参照してください。 http://www.hrc.co.jp

早川ゴム株式会社

東京支店内 耐放射線環境ゴム推進チーム  
〒135-0031 東京都江東区佐賀1-16-10  
TEL. 03-3642-1180 FAX. 03-3643-6288